



“宅女”の部屋



Webやアプリを活用した
中国語学習法

清原文代

好文出版

はじめに

この電子書籍は、NHK「テレビで中国語」テキスト（NHK出版）の2013年4月号から2014年3月号まで連載された清原文代「“宅女”の部屋」を、NHK出版編集部の同意を得て、一部加筆修正の上、著者本人が無償で公開するものです。本書では中国語学習に役立つWebページ、スマートフォンやタブレット用のアプリ、書籍等を紹介します。

“宅女”とは中国語の新語で、日本語の「オタク」が中国語に取り入れられたものだと言われています。女性なら“宅女”zháinǚ、男性なら“宅男”zháinánと言います。現代中国語の代表的な辞書である《現代汉语词典 第6版》（商务印书馆 2012年）にも収録されて話題になりました。

連載を開始する時に編集を担当してくださった北原幸恵さんに「コラムのタイトルをどういたしましょう？」と問われて、「うーん、『徹子の部屋』ならぬ『“宅女”の部屋』とか？」と冗談半分というか苦し紛れに言った一言がそのまま採用されてタイトルとなりました。

人によって学習スタイルは様々です。「“宅女”の部屋」に入って「このサイトは、このアプリは、この本は、自分の中国語学習に役立ちそう！」と思えるものが見つかり、それらが実際に皆様の中国語学習の何らかのお役に立てば幸いです。

2014年4月1日

清原文代

“宅女”の部屋に入る前に：ご注意とお願い

『注文の多い料理店』ではありませんが、「宅女」の部屋」に入る前に知っておいていただきたいことがあります。お手数ですが、どうぞ最後までお読みください。

- 本書はNHK及びNHK出版を代表するものではありません。本書で言及された製品、ソフトウェア、Webページ、サービス等の使用をNHK及びNHK出版が推奨するものではありません。
- 本書で紹介するソフトウェアやWebページはお使いの機器によっては正しく動作しないことがあります。
- ソフトウェア、機器、Webページ等の操作法についてのお問い合わせには、NHK、NHK出版及び本書の著者はお答えすることはできません。
- 本書に基づいて行われた作業の結果生じたあらゆる損害について、NHK、NHK出版及び本書の著者は一切の責任を負いません。
- Web検索の結果は逐次変化し、内容の正確性を保証することはできません。Web検索の結果をどう利用するかはご自身でご判断ください。
- 本書の中で「宅女」の部屋」以外のページに言及している箇所がありますが、これらは連載当時のテキストに依ったものですので、本書ではご参照いただけません。
- 文章中のWebリンクは本書執筆当時のものです。Web上の情報は変化が早いため、リンク切れ等がありましたら、どうかご容赦ください。
- 中国語簡体字が正しく表示されないことがあります。例えば、“写”という字は日本語では最後の横棒は突き抜けますが、中国語簡体字では突き抜けません。このような日本語と中国語簡体字の字形が微妙に異なる場合は恐らく日本語の字形で表示されます。どうぞ悪しからずご了承ください。
- 本書の中で紹介されている会社名・製品名・ソフトウェア名は一般に各社の商標または登録商標です。

第1回 中国語はじめの第一歩 — まずは辞書から

今月は主に中国語の漢字や発音を調べるときに役に立つ情報のお話をします。ご自分に合ったものを探してみてください。

1. 辞書は、紙、それとも電子、それともWeb？

私が30年前に中国語を始めたときには辞書と言えば紙でしたが、今はさまざまな選択肢があります。

紙の辞書

紙の辞書は重くてかさばりますが、一目で多くの単語を見渡すことができ、目的の単語以外の情報も自然と目に入ってきて、辞書を引く度に新たな発見があつて勉強になります。

本稿執筆時での、私のお勧めの中日辞典を紹介しましょう。まずは入門～初級に特化した『[はじめての中国語学習辞典](#)』（朝日出版、2002年）です。単語全体のピンインのアルファベット順に配列されていますので、引き方は英和辞典と同じです。

初級者でも使える中型の中日辞典としては、『[中日辞典第2版](#)』（小学館、2003年）、『[講談社中日辞典第三版](#)』（講談社、Windows用CD-ROM辞書付き、2010年）、『[超級クラウン中日辞典](#)』（三省堂、2008年）、『[東方中国語辞典](#)』（東方書店、2004年）があります。小学館・講談社・三省堂の辞書にはペアになる日中辞典もあります。

また、『[中日大辞典第三版](#)』（大修館書店、2010年）は、初級の人には使いこなすのはやや難しいですが、定評のある辞書です。

なお、『はじめての中国語学習辞典』以外は、単語の漢字の1字めのピンインで探す親文字配列になっています。1字めが見つかったら、その下にその漢字から始まる単語が2字めのピンインのアルファベット順に並んでいます。

電子辞書

電子辞書は持ち運びに便利です。機種によって機能の違いがありますが、単語の中国語の発音が聞ける機能は中国語を始めたばかりの方にはうれしいですね。さらに便利なのは紙の辞書ではできない検索方法が可能なこと。近年発売された機種の多くは手書き入力ができますので、読み方のわからない字も書いて調べられます。

また、ワイルドカード検索といって、検索語の一部を不明のまま検索する方法があります。不

明部分は～または*で代用します（どちらを使うかは機種によります）。ピンインのつづりがあやふやなときや、リスニングをしていて単語の一部しか聞き取れなかったときに使います。

本稿執筆時では、[カシオ](#)と[キヤノン](#)から中国語辞書をメインとする機種が出ています。

Web辞書

インターネット上には無料で引ける中国語Web辞書もあります。例えば、「[goo辞書](#)」や「[NAVER中国語辞書](#)」には中日辞典の見出し語に人間の声による音声がついています。「[NAVER中国語辞書](#)」はマウスを使った中国語手書き入力ができますので、発音のわからない字も書いて調べられます。簡体字の中には書き順がわかりにくい字がありますが、「[NAVER中国語辞書](#)」では書き順をアニメーションで見ることができます。（※）

また、「[Weblio日中中日辞典](#)」というWeb辞書サイトには『[白水社中国語辞典](#)』が収録されています。音声はついていませんが、単語の用法の詳細な説明を見ることができます。

（※）NAVER中国語辞書は2013年12月18日をもってサービスを終了しました。

スマートフォン・タブレット用の中国語辞書アプリ

今流行のiPhoneやiPadにインストールして使う中国語辞書アプリもあります。例えば、「[中日・日中辞典](#)」（有料、小学館の辞書を電子化したもの）、「[超級クラウン中日・クラウン日中辞典](#)」（有料）、「[講談社パックス中日・日中辞典](#)」（有料）、「[NAVER中国語辞書](#)」（無料、検索にはネット接続が必須）（※）などがあります。

（※）NAVER中国語辞書は2013年12月18日をもってサービスを終了しました。

2. 学習に役立つWebページ

日本語の漢字を中国語簡体字に変換する

鈴木慎吾先生（大阪大学）の「[中国語教師用クラス名簿一発作成ツール](#)」が便利です。漢字の字形の変換だけでなくピンインも振ってくれますが、1つの字に複数の発音がある場合は、自分で辞書を引いて意味にふさわしい発音を選びましょう。

地図をクリックして発音を聞く

インターネット上には無料で使える中国語教材がたくさんあります。その中から今月号の学習に役立つものを紹介します。

(1) 関西大学中国語教材研究会「[日本地図を中国語で言ってみよう](#)」日本地図の各都道府県をクリックすると中国語の発音が聞けます。

(2) 成蹊大学マルチメディア中国語教材“游”の「[マルチメディアピクチャーディクショナリー](#)」の「11.世界」に主だった国とその首都の中国語での表記と音声があります。ただし、この教材では韓国のソウルは古い表記のままです。ソウルは現在では“首尔”Sh ě u'ěrと言います。

3. 百聞は一見に如かず—画像検索

今月号の「成果物」の一つは中国語の名刺ですが、[Google日本の画像検索で“名片”を検索すると](#)、さまざまな中国の名刺の画像が見られます。また、中国の代表的なWeb検索サービスである“百度”に挑戦してみるのもおもしろいでしょう。[百度の場合は、“名片”を検索ボックスに入れた後、“图片”（画像）をクリックすると](#)、名刺の画像が検索されて出てきます。

4. 中国語を入力するには？

パソコンで中国語を入力するにはどうすればよいでしょうか？ 実は少し設定を変えることで日本で買ったパソコンでも中国語を入力することができます。

Windows7に中国語簡体字入力を追加するには以下のようにします。

1. スタートメニューからコントロールパネルを開きます。
2. 「キーボードまたは入力方法の変更」を選びます。
3. 「キーボードと言語」タブの「キーボードの変更」を選びます。
4. 「全般」タブで「追加」ボタンをクリックします。
5. 「中国語（簡体字、中国）」を選び、「Microsoft Pinyin New Experience」にチェックをつけて、OKをクリックします。

Windows7における中国語の利用については『[電脳中国学入門](#)』（好文出版、2012年）が詳しく解説していて参考になります。Windows8、MacやiPhoneでの方法も紹介したかったのですが、頁数が足りません。残念！

5. 成果物をネットに保存するには？

今年度の講座の特徴は毎月学習の成果物を作るということなので、ここでは「“宅女”の部屋」らしく、インターネット上に保存しておく方法を紹介しましょう。

[Evernote](#)（基本機能は無料）

Evernoteはネット上に置いておくノートです。パソコン、スマートフォン、タブレットから、文字、画像、音声、動画と多彩な方法でノートを作ることができます。ノートブックは、最初は自分しか見ることができません。共有設定をすれば他の人に見せることもできますが、コメント機能はありません。

[Facebook](#)の「ノート」（無料）

Facebookは友人と交流をするためのソーシャルネットワークサービスです。Facebookのふだんの書き込みは、時とともに更新されていきますので、後から成果物を見直すのには不便です。パソコンでFacebookに接続し、「アプリ」の中にある「ノート」を使います。文字と画像で成果物を記録しておくことができ、コメント欄もあります。ただし、ノートの公開範囲の設定には注意しましょう。

[ゴガクル](#)の「おぼえた日記」（無料）

ゴガクルはNHKの語学講座と連動した学習サイトです。「おぼえた日記」という機能を使って、成果物を文字で記録することができ、コメント欄もあります。ただし、公開範囲を設定することができませんので、誰に見られてもかまわない情報だけを書くようにしましょう。

連載当時のリンク集（4月号）

連載と並行して「“宅女”の部屋」リンク集を公開しました。リンク集にはテキスト前半の「学習ツール」とテキスト後半の「“宅女”の部屋」の両方の分の関連リンクを含みます。本リンク集は原則として連載終了後（2014年4月以降）は更新しません。

[宅女の部屋リンク集2013年4月号](#)に行く。

[宅女の部屋リンク集に関するお願い](#)を読む。

[宅女の部屋リンク集のトップページ](#)に行く。

今月の「テレビで中国語」の番組（※）では買い物が取り上げられています。買い物に欠かせないもの、それは数字とお金です。

（※）2013年5月放映済み。

1. 中国語圏のお札を見してみる

インターネットを使って中国語圏の紙幣のデザインを見てみましょう。人民元は中国の中央銀行“[中国人民銀行](#)”のWebサイトで“[人民币票样](#)”（人民元の見本）が見られます。現在の人民元は第五世代で、どの額面の紙幣の表にも“毛泽东”（毛沢東）の肖像が描かれています。紙幣の裏も見てみてください。右上にピンインでZHONGGUO RENMIN YINHANGと書かれている下に見慣れぬ文字が書かれていますが、それは中国の少数民族の言語（モンゴル語、チベット語、ウイグル語、チワン語）で“中国人民銀行”と書かれているのです。

お札に描かれている肖像というと歴史上の偉人というイメージがありますが、中国の紙幣には特定の人物ではない肖像が描かれたものもあります。現在も流通している第四世代の人民元の紙幣の中には、民族衣装を着た少数民族、“工人”（労働者）、“农民”（農民）、“知识分子”（インテリ）といった図柄が描かれたものがあります。

[台湾ドルの見本](#)は“[中央銀行全球資訊網](#)”で見られます。孫文、蔣介石の肖像の他に、少年野球や電波望遠鏡と人工衛星の打ち上げといった図柄もあります。

香港ドルは3つの銀行（香港上海滙豐銀行、中國銀行、渣打銀行）から発行されており、銀行によって図柄が異なります。しかし、額面ごとに色調が決まっていますので、色で金額を見分けられます。[香港ドルの見本](#)は“[香港金融管理局](#)”のWebサイトで見るすることができます。

澳門（マカオ）の通貨はパタカです。パタカは大西洋銀行と中國銀行から発行されており、[パタカの見本](#)は“[澳門金融管理局](#)”のサイトで見るすることができます。香港ドルと同様に発行銀行によって紙幣の図柄は異なりますが、額面ごとの色調は統一されています。

2. 領収書を書くときの漢数字

会社の経費で買い物をした時には“发票”fāpiào（領収書）が必要です。手書きで書くときにはアラビア数字であれ漢数字であれ、後から改竄される可能性があります。中国では手書きで領収書を書く時には“大写”と呼ばれる特別な漢数字が使われます。

- 一 壹
- 二 貳
- 三 叁

四 肆
五 伍
六 陆
七 柒
八 捌
九 玖
十 拾
百 佰
千 仟

3. 中国の物の値段を知るには？

物を売るには値ごろ感のある値づけができるかどうか重要です。日本の物価の相場はだいたい見当がおつきになるでしょうが、中国の物価はどれくらいなのでしょう？

[日本貿易振興機構（ジェトロ）](#)

ジェトロのWebサイトにある「[国・地域別情報（J-FILE）](#)」のコーナーには世界のさまざまな国や地域でビジネスをする際に必要になる基本的な情報やジェトロの現地調査報告が集められており、[中国](#)、[香港](#)、[台湾](#)のビジネス情報が日本語で読めます。物価に関する調査報告もあります。

“[中国价格信息网](#)”

中国の“国家发展改革委价格监测中心”によるWebサイトです。中国語のサイトですので初級のかたには敷居が高いとは思いますが、中国各地の物価統計を“工业品价格”（工業品価格）、“农产品价格”（農産物価格）といった具合に分野別に見ることができます。

中国のネットショップ

中国でもインターネットショッピングが盛んです。ネットショップには必ず写真がありますので、初級のかたでも写真と対照させながら、中国語で品物の名前をどう言うのかがある程度わかりますし、実際にどれくらいの値段で売られているかを見ることができます。中国でよく知られているネットショップとしては、“[淘宝网](#)”、“[京东商城](#)”、“[当当网](#)”などがあります。またAmazonの中国版“[亚马逊](#)”もあります。ただし、これらのネットショップは中国人向けのもので、何かトラブルが起こったときのやりとりも中国語になります。とりあえずは見るだけにとどめておいたほうが無難です。

4. 日本円も人民元も“¥”

中国のネットショップを見ると、通貨を表す記号として¥が使われていますが、これは日本円ではなく人民元です。“人民币”の単位として“元”を学びましたが、100元札の表には“壹佰圓”と書かれており、正式には“圓”（簡略化する前の字形は“圓”）なのです。“圓”と“元”は発音が同じyuánで、日常生活の表記としては“元”のほうを使います。日本は明治4年（1871年）に円を通貨の基本単位としましたが、円の字の簡略化する前の字形は「圓」です。したがって日本円と人民元が同じ¥の記号を使っても不思議ではないのです。ドルと言えども思い浮かぶのはアメリカドルですが、オーストラリアなどアメリカ以外の国や地域もドルという通貨単位を使っています。それと同じことですね。なお、明治政府がなぜ「圓」という単位を採用したかについては、[日本銀行金融研究所貨幣博物館](#)のサイトにある「[お金の歴史に関するFAQ](#)」によると、[3つの説があります](#)。そのうち1つは中国に、もう1つは香港に関連しています。ご興味のあるかたは検索してみてください。

5. 『中国年鑑』

書籍も紹介しましょう。『[中国年鑑](#)』（中国研究所発行、毎日新聞社発売）は、現代中国に関する情報を、政治、経済、文化、社会と幅広く集めたもので、毎年1冊刊行されます。その年の各分野の動向や統計資料などが日本語で読めて便利です。今月のテキストでは為替レートの話が出てきますが、『中国年鑑』の「通貨・国際金融」のコーナーでは人民元のその年の動向がまとめられています。本稿執筆時の最新刊は『[中国年鑑2012](#)』です（2013年5月『[中国年鑑2013](#)』刊行予定刊行されました）。

連載当時のリンク集（5月号）

連載と並行して「“宅女”の部屋」リンク集を公開しました。リンク集にはテキスト前半の「学習ツール」とテキスト後半の「“宅女”の部屋」の両方の分の関連リンクを含みます。本リンク集は原則として連載終了後（2014年4月以降）は更新しません。

[宅女の部屋リンク集2013年5月号](#)に行く。

[宅女の部屋リンク集に関するお願い](#)を読む。

[宅女の部屋リンク集のトップページ](#)に行く。

第3回 観光の話

今月の番組（※）では身近な観光名所への交通案内を作ります。今回は、「観光」のお話をしましょう。

（※）2013年6月放映済み。

平成24年度『観光白書』（国土交通省）によると、東日本大震災の影響で平成23年度の訪日外国人は軒並み減少していますが、中国からの訪日客は約104万人、台湾は約99万人、香港からは約36万人で、中国語圏からの訪日客は訪日外国人全体の38.7%を占めています。昨今の日中関係の緊張もあって以前の水準にはなかなか戻りませんが、訪日外国人のうち中国語圏からの訪日客が占める割合が高いことには変わりありません。

「観光」という言葉を古典中国語の辞書で引いてみると、最初に“觀國之光”（国の光を観る、「光」は「まぶしいにぎわい」のこと）という『易経』の例が挙がっています。たとえ“走馬看花”（馬を走らせながら花を見る＝ざっと見る）であっても、その国や地域の中に身を置いてみて初めて見えてくるものもあります。互いの「国の光」を見ることが交流や相互理解のきっかけになればと思います。

1. 交通機関の中国語Webサイト

日本の交通機関の中の中国語

観光には移動がつきもの、昔はターミナル駅や空港での外国語表示というともっぱら英語でしたが、最近は英語と並んで中国語とハングルで表記されることが多くなってきました。車内放送でも中国語放送が流れることがあります。九州新幹線に乗ったとき、日本語と英語に続いて韓国・朝鮮語、そして中国語の車内放送が流れ、改めて中国との距離の近さを感じました。日本の街の中にも中国語を学ぶための素材はあります。みなさまもお出かけの際にはちょっと注意してみてください。

私はひどい方向音痴で東京や大阪の地下鉄の路線図を見ると頭がくらくらしますが、訪日客も言葉の問題がありますから最初はきつととまどうのではないのでしょうか。[東京メトロ](#)や[都営地下鉄](#)、[大阪市営地下鉄](#)などには中国語版のWebサイトがあって中国語の路線図や地下鉄の乗りかたの説明などがあります。その他鉄道や空港などさまざまな交通機関が中国語版Webページを作っています。日本語版がそのまま中国語に訳されているとは限らないのですが、おおよその見当をつけることができる部分があります。外国語を学ぶというともまず会話能力が頭に浮かびますが、円滑に社会生活を送るためには文字から必要な情報を得る能力も必要ですから、まだ中国語を始めて間もないかたもちょっとのぞいてみませんか？「ああ、〇〇のことは中国語でこう言うのか」という発見がきつとありますよ。

中国語圏の市内交通としての鉄道

日本の地下鉄の中国語版Webサイトの次は中国の“地铁”のWebサイトにも挑戦してみましよう。北京や上海など地下鉄のある都市を訪れる前に[“上海地铁”](#)“[北京地铁](#)”など各地下鉄の“网站”（Webサイト）で“线路图”（路線図）を見て予習しておくのもよいかもしれませんね。“北京地铁”のWebサイトにある“时刻表”を見ると、“首车”と“末车”の2つの時刻しか書いてありません。ということは“首车”というのは始発で、“末车”というのが終電のことだとわかります。“上海地铁”のWebサイトには“我要乘地铁”というコーナーがあつて（原稿執筆時）、（1）“进站”から（8）“出站”まで地下鉄の乗りかたが順に写真入りで紹介されています。写真を見ると“检票”が改札のことだとわかります。

なお、市内交通のための鉄道としては、香港には[MTR港鐵](#)があり、台北には[MRT捷運](#)があります。第10課の「文化のルール」では北京や上海の公共交通機関のICカードが紹介されていましたが、MTR港鐵には“八达通”、MRT捷運には“悠遊卡”というICカードがあります。

2. 観光情報

中国語で読む日本観光情報

第9課の「学習ツール」のコーナー（※）で観光名所の名称にカタカナが入っていたら……と書きましたが、“[东京迪士尼乐园](#)”、“[日本环球影城](#)”、これらは中国語圏からの観光客にも人気のテーマパークですが、どこのことかわかりますか？前者は東京ディズニーランド、後者はユニバーサル・スタジオ・ジャパンのことです。“东京”（東京）、“迪士尼”Díshìníはディズニーの音訳、ランドには“乐园”（樂園）を当てていて、音訳と意識を組み合わせています。“环球”は全世界（ユニバーサル）、“影城”の“影”は“电影”（映画）の“影”、中国語の“城”は街、都市という意味で、こちらは意識です。もちろんどちらも中国語のWebサイトを持っています。おなじみのキャラクターを中国語では何と言うか、中国語版Webサイトで見てみるのもおもしろそうですね。

第12課の「学習ツール」のコーナー（※）では[日本政府観光局（JNTO）の中国語Webサイト](#)を紹介しましたが、各地域が発信している中国語観光情報の例を少し紹介しましょう。東京については「[GO TOKYO](#)」（東京観光財団）、大阪は「[OSAKA-INFO](#)」（大阪観光局）が中国語のWebサイトを持っています。みなさまもお住まいの地域や出身地の観光協会や市役所、県庁などがこのような中国語の観光情報を発信していないか検索してみてください。

（※）本書には含まれていません。

中国語圏からの輸入書

そこに住んでいる人が見せたい「国の光」と訪れた人が興味を持つ「国の光」は必ずしも一致するとは限りませんので、中国語圏で出版されている日本旅行ガイドブックを見るのも一興です。[東方書店](#)、[中国書店](#)、[内山書店](#)、[亜東書店](#)、中華書店など中国語圏からの輸入書を扱う書店があります。扱っている本は専門書が多いですが、ガイドブックの類いが売られていることもありますし、中国語圏で出版された中国語学習教材などが置いてあったりもします。そう言えば、若い頃まだたいして中国語が読めもしないのに、背伸びして中国からの輸入書を買ったことを思い出します。

日本語で読む中国語圏の観光情報

書店に行けば日本語で書かれた中国語圏への旅行ガイドブックがたくさん売られていますが、相手がお勧めする「国の光」も見てみましょう。[中国国家観光局](#)、[香港政府観光局](#)、[台湾観光協会](#)は、いずれも東京と大阪に事務所があり、日本語で書かれた観光パンフレットや公式ガイドブック、観光地図などを配布しています。また、それぞれWebサイトを持っており、観光に関するさまざまな情報を日本語で読むことができます。

連載当時のリンク集（6月号）

連載と並行して「“宅女”の部屋」リンク集を公開しました。リンク集にはテキスト前半の「学習ツール」とテキスト後半の「“宅女”の部屋」の両方の分の関連リンクを含みます。本リンク集は原則として連載終了後（2014年4月以降）は更新しません。

[宅女の部屋リンク集2013年6月号](#)に行く。

[宅女の部屋リンク集に関するお願い](#)を読む。

[宅女の部屋リンク集のトップページ](#)に行く。

第4回 自学自習に役立つ情報

このテキストをお読みのみなさまの中には、周りに中国語の教師や中国語を母語とする人がいない中で自学自習を続けているかたもいらっしゃるのではないのでしょうか?今回はそんなかたのために役立つ情報をお届けします。

1. 発音

全ての音節の発音を聞きたい

[関西大学中国語教材研究会](#)のWeb教材「[四声切替：中国語基本音節表](#)」では、全ての音節の発音を4つの声調で聞くことができます（スマートフォンやタブレットの場合は「[中国語音節表](#)」）。

口の動きを見たい

大阪大学世界言語研究センター（※）のWeb教材『[「社会人を対象とした学士レベルの外国語教育プログラムの提供」事業コンテンツサイト](#)』にある「[ウェブカメラで学ぶ中国語発音入門](#)」ではネイティブスピーカーの口元の動画を見ながら発音を学べます。パソコンにカメラがついていれば、自分の口元をパソコン上に映して見ることもできます。

（※）平成24年4月に廃止され、大阪大学大学院言語文化研究科に統合されました。

手前みそですが...

私がインターネット上で公開している教材を1つ紹介させていただきます。「[ネットでget!ピンイン聞き分けトレーニング](#)」という教材です。パソコンのハードディスクにダウンロードして使用してください。模範音声が付いてあります。パソコンにマイクがあれば、自分の発音を録音してこのPDF教材に貼付けて聞くこともできます。教材を配布しているWebサイトに使い方が書いてあります。

書籍で発音をしっかり学びたい

CD付き書籍で中国語の発音を学びたいというかたには以下の書籍がお勧めです。

- 日下恒夫『[アタマで知り、カラダで覚える中国語の発音](#)』（アルク2007年）
ちょっと辛口の解説で中国語の発音を理論からきっちり学ぶことができます。
- 郭春貴『[改訂版日本人のための中国語発音の特訓](#)』（白帝社2005年）
実践的な練習問題が中心の本です。

2. 読解

辞書引きを楽に

なるべく中国語の生の素材に触れてほしくて、これまでの連載では中国語で書かれたWebページをいくつか紹介してきましたが、わからない単語だらけでは読む気力どころか辞書を引く気力もなえてしまいそうですね。そういう時はWeb辞書「NAVER中国語辞書」の「単語分析ツール」を使うという方法があります。読みたいWebページの文章をコピーして、「単語分析ツール」を開いてペーストします。「分析する」をクリックすると、文章を単語ごとに分かち書きしてピンインを振り、各単語から辞書引きができるようにリンクを貼ってくれます。分析に間違いがあることもありますが、読解の助けになります。（※）

（※）NAVER中国語辞書は2013年12月18日をもってサービスを終了しました。

文法を学ぶための参考書

自力で読解だ！となれば文法の知識が必要です。Web上にも中国語文法を解説した教材はあるのですが、じっくり読むには最初は紙のほうがよいかもかもしれません。よい参考書はいろいろあるのですが、紙幅の関係上とりあえず2点だけ挙げておきます。

- 相原茂・石田知子・戸沼市子『[Why?にこたえるはじめての中国語の文法書](#)』（同学社1996年）
この本は文法の説明だけでなく、練習問題を解きながら学習を進めていくことができるので自学自習向きです。
- 三宅登之『[中級中国語読みとく文法](#)』（白水社2012年）
こちらは一とおり初級文法を学んだけれども、頭の中の交通整理がまだできていない人にお勧めです。

中国語学習の疑問に答える参考書

自学自習している場合、質問できる先生が身近にいないのがつらいところです。以下のシリーズでは学習者が感じる典型的な疑問について、文法はもちろん発音や語彙など幅広くQ&A式で解説されています。目次を開けばそこにみなさんが感じていた疑問があるかもしれません。

- 相原茂・木村英樹・杉村博文・中川正之『[新版中国語入門Q&A101](#)』（大修館書店2003年）
- 相原茂・木村英樹・杉村博文・中川正之『[中国語学習Q&A101](#)』（大修館書店1991年）
- 相原茂・荒川清秀・喜多山幸子・玄宜青・佐藤進・楊凱榮『[中国語教室Q&A101](#)』（大修館書店2000年）

3. 作文

機械翻訳の落とし穴

皆様の中にはWeb上の機械翻訳サービスを使って日本語を中国語に訳させたことがあるかたもいらっしゃるでしょう。機械翻訳は確かに役に立つこともあるのですが、残念ながら誤訳も少なくないのが現状です。あるお店のレジに「両替はご遠慮願います」という貼り紙があって、そこに“兑换请远虑”という中国語も添えられていました。「ああ、たぶんWeb上の機械翻訳サービスを使ったんだろうけれど、通じないだろうなあ」と思いました。中国語の“远虑”は日本語の漢字で書けば「遠慮」ですが、日本語の「遠慮」のような婉曲な禁止や拒絶を表す意味はないのです。なお、お店や公共の場所の貼り紙は定型的な文で書かれていることが多いですが、「[テプラ外国語ラベル工房](#)」というサイトではこのような定型的な文の中国語訳文集を日本語で検索することができて便利です。

Web検索で自分と同じ文がないか探す

周りに中国語の先生や中国語を母語とする人がいないと、自分の作った中国語の文が正しいかどうか確かめる機会になかなか恵まれません。ここではインターネット検索を利用する方法を紹介しておきましょう。Googleも百度も検索語を半角の引用符" "で囲むと、語順も含めた完全一致検索ができます。例えば、「私は毎日体操をします」というつもりで"我每天体操"という文を書いて完全一致検索をしてみると、完全に一致するものは検索されてきません（原稿執筆時の状況）（[百度の検索結果](#)、[Googleの検索結果](#)）。"我每天做操"なら検索されてきます（[百度の検索結果](#)、[Googleの検索結果](#)）。検索されてきたから100%正しい中国語だと言うことはできませんが、ある程度の参考にはなります。

中国語コーパス

ネット上の言語は質がさまざまなうえに、その文を書いた人が中国語を母語としているという保証はありません。中国語母語話者が書いた中国語だけを検索したいのなら、コーパスを使います。Web上にあつて無料で使える中国語コーパスとしては北京大学の“[CCL语料库检索系统](#)”があります。自分の使いたい単語やフレーズを入力して、どんな使いかたをされているか用例を見ることができます。

連載当時のリンク集（7月号）

連載と並行して「“宅女”の部屋」リンク集を公開しました。リンク集にはテキスト前半の「学習ツール」とテキスト後半の「“宅女”の部屋」の両方の分の関連リンクを含みます。本リンク集は原則として連載終了後（2014年4月以降）は更新しません。

[宅女の部屋リンク集2013年7月号](#)に行く。

[宅女の部屋リンク集に関するお願い](#)を読む。

[宅女の部屋リンク集のトップページ](#)に行く。

第5回 食べ物の名前の話

今月の番組（※）のテーマは「食」です。中国の食品については近年好ましくないニュースがありますが、中国は多彩で豊かな食文化を持っていることももう一面の真実です。先日うっかり食事前に“[中国网络电视台](#)”というインターネットテレビで《[舌尖上的中国](#)》という中国各地の食文化を取り上げた“纪实片”（ドキュメンタリー）を見てしまい、猛烈におなかがすきました。

（※）2013年8月放映済み。

1. 図解辞典

第19課の「学習ツール」（※）でも紹介しましたが、日常生活で接する物の名前を知るには図解辞典が便利です。

（※）本書には含まれていません。

(1) 『[中国語図解辞典](#)』（大修館書店1992年）

約1万6千語を収録、イラストは白黒ですが、物の特徴がよく表現されています。

(2) 『[オールカラー中国語生活図解辞典DVD-ROM付き](#)』（小学館2011年）

3300語を収録、中国語は簡体字（普通話）と繁体字（台湾華語、台湾の中国語）の両方で表記されています。付属のWindows用DVD-ROMにはイラスト・音声・動画などが入っています。

(2) の辞典は[カシオの中国語電子辞書の一部の機種](#)に搭載されています（ただし書籍版にある繁体字は省略）。[シャープの中国語電子辞書の一部の機種](#)にも搭載されています。『[中国語生活図解辞典](#)』というタイトルでiPhone・iPad用の中国語辞書アプリ（有料）にもなっています。

2. “土豆”は何を指す？地域による語彙の差

『オールカラー中国語生活図解辞典』は台湾で編集されたものですが、日本語版の監修をされた遠藤雅裕先生が台湾で“酸奶”suānnǎi（ヨーグルト）を買おうとして同伴してくれた現地の学生に怪訝な顔をされ、いろいろと話しているうちに台湾ではヨーグルトのことを“優酪乳”yōuluòrǔと言うことがわかったというエピソードが辞典の冒頭で紹介されています。

実際に話されている中国語はなんだか番組で習った中国語とちょっと違っている場合があると感じたことがあるかたはいらっしゃいませんか？その原因の1つは方言です。中国語には大きく分けて7つの方言がありますが、各方言の間で発音・語彙・文法の違いがあります。とりわけ発音の相違は大きく、方言で話すと中国人同士でも意志の疎通が難しいことは決して珍しくありません。

そこで北京語をベースとした中国語の共通語を使うわけですが、共通語を使ってもそれぞれの地域のお国ぶりが出ます。特に私たちがとまどうのは遠藤先生が紹介されたような語彙の違いです。中には同じ単語が地域によって意味が異なることもあります。例えば、“土豆”tǔ dòuは“普通话”ではジャガイモという意味ですが、台湾華語ではピーナッツという意味なのです。ピーナッツは食物アレルギーの代表的なアレルゲンの1つですから要注意ですね。ちなみに台湾華語でジャガイモは“馬鈴薯”mǎ língshǔと言います。

“普通话”と台湾華語の語彙の違いを取り扱った辞書（中中辞典）があります。簡体字版と繁体字版がそれぞれ北京と台北で出版されています。（[中国語圏からの輸入書を扱う書店](#)については6月号の「“宅女”の部屋」をご覧ください。）

- 《两岸常用词典》（高等教育出版社2012年）
- 《兩岸常用詞典》（中華文化總會2012年）

この2冊の辞書はそれぞれ“两岸合作編纂中華語文工具書大陸編写委员会”の“[中华语文知识库](#)”と“中華文化總會”の“[中華語文知識庫](#)”というWebサイトでも引くことができます。“中華語文知識庫”のほうには《[兩岸每日一詞](#)》という中国語繁体字字幕付きの動画シリーズがあり、“熊貓”xióngmāo（パンダ）と“猴子”hóuzi（サル）の人形が“普通话”と台湾華語の語彙の違いを説明しています。先ほどの“土豆”については、[“熊貓”が昨日“炒土豆丝”（ジャガイモの細切り炒め）を食べたと言うと、“猴子”が“土豆”（ピーナッツ）を細切りにできるなんて!と驚いています。](#)

3. 中国のグルメサイト

第18課の「文化のルール」（※）では「天津飯」など日本人が中国料理と思い込んでいるのに中国ではなかなか出会えないメニューが紹介されていますが、では中国のレストランのメニューはどのようなものかインターネットで見てください。ユーザーが投稿するタイプのグルメサイトは中国にもあり、“[大众点评](#)”ではユーザーが投稿したメニューや料理の写真、ユーザーによる口コミ情報が見られます。中国語のサイトはまだ難しいと感じられる場合は、「[ぐるなび北京](#)」「[ぐるなび上海](#)」など日本企業が日本語で中国のレストランを紹介するサイトもあります。どのサイトもそうですが、日本の中国料理店ではあまり見かけないメニューがたくさんあります。

（※）本書には含まれていません。

4. 日本料理の名前を中国語でどう言うか？

まず日本料理そのものは中国語でどう言うのでしょうか？私が学生の頃は“日本菜”Rìběncàiと言うのだと習いましたが、近年は「日本料理」をそのまま中国語読みしたRìběn liào lǐをよく見聞きするようになりました。中国語の“料理”liào lǐは元来「取りしきる、処理する」という意味で、現代中

国語の代表的な辞書《现代汉语词典》（商务印书馆）の第4版2002年増補本ではその意味しか載せていません。2005年の第5版になると、方言と注記した上で“菜肴”càiyáo（料理、おかず）という語釈を載せ、例として“日本料理”“韓国料理”を挙げています。2012年に出版された第6版でも引き続き“菜肴”という語釈と“日本料理”“韓国料理”という例を挙げていますが、方言という注記はなくなっています。それだけ中国語の中に“日本料理”という言いかたが定着してきたのでしょう。

《现代汉语词典》第6版には3000語近くが新たに収録されましたが、その一つに“寿司”shòusīもあります。ただし、どの日本料理も「寿司」のように漢字で書けば通じるというわけではありません。日本料理の名前をどのように中国語に訳すのか、参考になるサイトとしては東京都産業労働局観光部振興課による「[東京都外国語メニュー作成支援WEBサイト](#)」があります。同サイトを使って作られた中国語メニューは「[東京都外国語メニューのある飲食店のご紹介](#)」というWebサイトの中国語版（[中文简体字版](#)・[中文繁体字版](#)）で見ることができます。例えば「すき焼き」は中文簡体字版では“[日式牛肉火锅](#)”Rìshì niúròu hu ō guō（日本式の牛肉鍋）という意識ですが、中文繁体字版では“[壽喜燒](#)”shòux ĭ shāoとなっていて、すき焼きの「すき」の部分に“壽喜”（“寿喜”）という字を当てています。また、上で紹介したグルメサイトには中国にある日本料理のレストランのメニューも入っています。中国語の“菜谱”càipǔ（レシピ）サイトには外国料理の一部門として日本料理のレシピを載せているところがありますので、そういったサイトも参考になります。

5. クイズ：日本と同じ物??

中国には“煎饼”jiānb ĭ ngという食べ物があります。日本語の漢字で書けば「煎饼」です。“烧饼”shāob ĭ ngという食べ物もありますよ。日本語の漢字で書けば「烧餅」です。どんな食べ物か、今月号の「学習ツール」コーナー（※）とこのコラムを読んだみなさまはもういろんな手段を使って自分で調べられますよね？

（※）本書には含まれていません。

- [“煎饼的做法”を百度で検索する](#)
- [“煎饼的做法”をGoogleで検索する](#)
- [“烧饼的做法”を百度で検索する](#)
- [“烧饼的做法”をGoogleで検索する](#)

連載当時のリンク集（8月号）

連載と並行して「“宅女”の部屋」リンク集を公開しました。リンク集にはテキスト前半の「学習ツール」とテキスト後半の「“宅女”の部屋」の両方の分の関連リンクを含みます。本リンク集は原則として連載終了後（2014年4月以降）は更新しません。

[宅女の部屋リンク集2013年8月号](#)に行く。

[宅女の部屋リンク集に関するお願い](#)を読む。

[宅女の部屋リンク集のトップページ](#)に行く。

第6回 自学自習に役立つ情報 (2)

7月号に続き、周りに中国語の教師や中国語を母語とする人がいない中で自学自習を続けておられるかたに役立つ情報です。

コラム執筆ということでお引き受けしたこの仕事でしたが、番組のほうでも4月から9月まで月1回2分間ほどのコーナーを担当しています(※)。コラムの執筆と番組の収録は必ずしも連動していないので、すでに番組で紹介したものでも、テキストの「宅女の部屋」で紹介していないものがあります。今月はそれらを中心にお送りします。

(※) 2013年4月～9月放映済み。

1. フレーズや文の発音が聞きたい！ — TTS (テキスト音声合成) を使う

単語1つ1つの発音は電子辞書で聞くことができますが、番組の成果物として自分で作った文の発音を聞いてみたいと思ったことはありませんか？身近に中国語教師や中国人の方がいればいいのですが、そうでない場合はTTSを使ってみましょう。ソフトウェアで音声を合成しますので、100%正しいという保証はありませんが、参考にはなります。無料で使えるものを紹介しましょう。

NAVER中国語辞書の単語分析ツール

~~Web辞書「NAVER中国語辞書」の「単語分析ツール」を開いて発音を聞きたい中国語の文を入力します。「分析する」をクリックすると、文を単語ごとに分かち書きしてピンインを振ってくれます。「発音する」をクリックすると合成音声で読み上げてくれます。(※)~~

(※) NAVE中国語辞書は2013年12月18日をもってサービスを終了しました。

Google翻訳

[Google翻訳](#)は機械翻訳サービスですが、正直言ってその翻訳精度は高くありません。ここでは翻訳ではなく、中国語の読み上げのために使ってみることにしましょう。

お使いのパソコンに中国語入力環境がない場合でも、Google翻訳自体に中国語入力システムが備わっています。入力エリアをクリックすると [拼] のアイコンが現れますので、[拼] のアイコンをクリックして中国語入力をオンにします。

中国語を入力した後に、スピーカーのアイコンをクリックすると、入力した文をTTSで発音します。[A]のアイコンはピンインの表示と非表示を切り替えます。

Google翻訳には[Android用アプリ](#)のほかに[iPhoneやiPad用アプリ](#)もあります。

2. 自分の発音は通じるのか？

— 中国語音声認識で試す

中国語を始めて間もないころは自分の発音に通じるのか不安なものです。中国の人と話す前に機械を相手に予行演習をしてみましょう。中国語音声入力とは元来中国語を母語とする人のためのものですから、それを使って中国語を入力できたら自信になりますね。同音異義語の問題がありますので、2音節以上の単語かフレーズで練習するとよいでしょう。例えば、zuòという発音を持つ字は“坐”“座”“做”“作”などがありますが、zuò dìtiěと言えば“坐地铁”（地下鉄に乗る）です。うまく入力されないときは、やみくもに繰り返すのではなく、TTSなどを使ってお手本をもう一度聞いてから再挑戦してください。

iPhone・iPadのSiri

番組ではiPhoneの中国語音声認識を使って練習していました。iPhoneやiPadの一部の機種で利用できる機能です。最初はオフになっていますので、初期設定を変更します。

以下はiOS6での手順です。

1. 「設定」→「一般」→「キーボード」→「キーボード」→「新しいキーボードを追加」で、「中国語-簡体字（手書き）」または「中国語-簡体字（拼音）」を追加します。これで中国語の文字入力ができるようになりました。
2. 「設定」→「Siri」でSiriをオンにします。Siriに話しかけた音声はApple社のサーバーに送られて文字に変換されますので、使用するにはインターネット接続が必要です。
3. 文字入力ができるアプリで「地球」のアイコンを長押しして中国語入力に切り替えます。「マイク」のアイコンを押して話しかけると音声入力ができます。

以下はiOS7での手順です。

1. 「設定」→「一般」→「キーボード」→「キーボード」で、「中国語-簡体字（手書き）」または「中国語-簡体字（拼音）」を追加します。これで中国語の文字入力ができるようになりました。
2. 「設定」→「一般」→「Siri」でSiriをオンにします。Siriに話しかけた音声はApple社のサ

サーバーに送られて文字に変換されますので、使用するにはインターネット接続が必要です。

3. 文字入力ができるアプリで「地球」のアイコンを長押しして中国語入力に切り替えます。「マイク」のアイコンを押して話しかけると音声入力ができます。

Dragon Dictation (iPhone・iPad用アプリ、無料)

Siriは古いiPhoneやiPadでは使えませんが、[DragonDictation](#)は一世代前のiPhoneやiPadでも使えます。Dragon Dictationに話しかけた音声は開発元のNuance Communications社のサーバーに送られて文字に変換されますので、使用するにはインターネット接続が必要です。Dragon Dictationを起動したら、歯車のアイコンまたは「↓」のアイコンをクリックして「設定」を開け、「言語」というところで「中文（中国）」に切り替えると中国語の音声入力ができます。

Androidの場合は？

Androidの場合は機種やメーカーによる違いが大きく、一律に説明をすることが困難です。番組で使用していたタブレットはGoogle社のNexus7で、「Google音声入力」を使って中国語を入力していました。Android搭載のスマートフォンやタブレットをお持ちの方は、「設定」→「言語と入力」で「Google音声入力」が入っていないかどうか見てみてください。

発声・発音練習ドリル「発音イイね！（発音不錯！）」

中国語音声入力を使ったパソコン用の教材も一つ紹介しましょう。2013年6月に開催された中国語教育学会全国大会で上地宏一先生（大東文化大学）が発表された「[発音イイね！（発音不錯！）](#)」は、TTSと中国語音声入力を組み合わせた発音練習用のWeb教材です。まだプロトタイプですが、一般に公開されています。自分で練習したい単語やフレーズを入力し、その発音をTTSで聞いた後に、中国語で音声入力します。マイクのついたパソコンを使い、[Chrome](#)というGoogle社のWebブラウザでアクセスします（他のWebブラウザではだめです）。簡単なサンプルを作っていますので、ドリルIDのところに半角英数の大文字でNHKと入れてみてください。

3. 単語を覚えるのがたいへん！

— 音が出てゲームもできる単語カード **Quizlet**

受験勉強のときに単語カードを使って英単語を覚えた経験はありませんか?でも紙のカードからは音は出ませんね。[Quizlet](#)はアメリカのWebサービスで、TTSを使った音声付きの単語カードを使って学習することができます。Quizletの良いところは単にカードの音を聞くだけでなく、ゲーム性のある練習ができることです。パソコンやタブレットのWebブラウザでアクセスすると、音声付きカードに加えて以下の機能が使えます。

- Speller

TTSの音声を聞いて文字を入力する。

- Learn

カードの片面を見て、対応する単語を入力する。2回全問正解するまで問題が出続ける。

- Test

記入問題、マッチング問題、選択問題、正誤問題をランダムに自動作成される。

- Scatter

カードの表と裏をマッチングさせて消す速さを競うゲーム。

- Space Race

カードが画面を横切る間に、対応する単語を入力して、カードを撃ち落として点数を競うゲーム。

スマートフォンにも対応しています。スマートフォンのWebブラウザでアクセスすると、スマートフォンの小さな画面のサイズに合わせた見やすいレイアウトで表示され、Space Raceを除いた上記の機能を使うことができます。

[私はQuizletを使って中国語入門・初級者用に単語カードセット約300語を作って公開しています。](#) [「“宅女”の部屋」リンク集の9月号](#)からリンクを張っておきますのでぜひアクセスしてみてください。公開されている単語カードセットはWebブラウザがあれば誰でも使えますが、Quizletのアカウントを取れば、自分のオリジナルの単語集を作ったり、学習履歴を保存することもできます。

連載当時のリンク集（9月号）

連載と並行して「“宅女”の部屋」リンク集を公開しました。リンク集にはテキスト前半の「学習ツール」とテキスト後半の「“宅女”の部屋」の両方の分の関連リンクを含みます。本リンク集は原則として連載終了後（2014年4月以降）は更新しません。

[宅女の部屋リンク集2013年9月号](#)に行く。

[宅女の部屋リンク集に関するお願い](#)を読む。

[宅女の部屋リンク集のトップページ](#)に行く。

9月号では番組のコーナーで紹介したWeb教材を主に取り上げましたが、9月第3週に放映予定の分 (※) は紙幅の関係で書けませんでしたので、今回紹介します。また2013年度の番組が始まって半年、そろそろ自学自習を続けるのがつらくなっていませんか?やめたくなくなったら目に見える期限を自分で作り、そこまではなんとかがんばってみると考えるのはどうでしょう?

(※) 2013年9月17日放映済み。

1. 無料で使える中国語学習のためのWeb教材

かのビル・ゲイツ氏は2010年に「今から5年以内に世界で最も優れた授業はウェブから無料で手に入るようになるだろう」と発言したことがあるそうです。彼がIT業界の人であることを割り引いて考えないといけないでしょうが、その発言はうそではないと思います。現在インターネットがあれば、日本を含め世界のさまざまな大学の講義ビデオや教材を無料で見られます (※)。中国語教育についても日本語話者向けの無料Web教材がいろいろありますが、番組ではその中から3点を選んで紹介しました。

(※) 日本の大学がネット公開している講座や講義の例を [「“宅女”の部屋」リンク集10月号](#)で紹介しています。

東外大言語モジュール：中国語

[東京外国語大学言語モジュール](#)では日本語・英語・中国語を含む22言語の教材が公開されています。[中国語のモジュール](#)には発音・会話・文法・語彙の4つがあります。

発音部分は「サバイバル」→「円滑なコミュニケーション」→「ネイティブ並み」と3つのレベルに分かれていますので、自分のレベルに合わせて学習できます。

会話部分では対話の一方のセリフを消して発音練習するロールプレイやディクテーション（聞き取り練習）などができます。会話部分でおもしろいのは、標準的な“普通話”（中国語の共通語）に加えて各地の方言の影響を受けた“普通話”の教材も用意されていることです。いくら共通語と言っても中国の人たちが全員アナウンサーのような標準的な発音で話すわけではありませんから実践的です。

文法モジュールは大学の第二外国語の中国語2年間で学ぶ文法事項をカバーしています。文法部分は「中国語に触れる」→「基礎固め」→「徹底実力養成」の3レベル、文法の説明だけでなく、答え合わせができる練習問題もついています。

なお、この教材はパソコン用ですが、[スマートフォンやタブレットで使えるバージョン](#)も公開されました。現時点ではパソコン版より内容が少なくなりますが、スマートフォンに特化した[モバイル版](#)も公開されています。

成蹊大学マルチメディア中国語教材“游”

東外大のものよりももう少し易しい語り口の教材がよいかたは「[成蹊大学マルチメディア中国語教材“游”](#)」がよいでしょう。一部のスマートフォンで見られることもできるそうですが、この教材は基本的にはパソコン用です。「発音の基礎」「発音と語法の基礎」「マルチメディアピクチャーディクショナリー（絵と音がついた分野別単語集）」「学習プログラム（練習問題集、この部分のみアカウント登録が必要、無償）」などがあります。

「発音の基礎」は日本語による解説が音声で入っていますので、授業を聞く感覚で学習できます。「発音と語法の基礎」は中国語音声付きの初級教科書で、「練習」の部分にはちょうどカラオケのように読んでいる部分の文字の色が変わって表示される機能もあります。

また、この教材サイトではWindows限定ですが、模範音声と自分の声の波形を比較するソフトウェアがダウンロードできます。

NHKエデュケーション「ゴガクル」

受験参考書は最初から順に読むより気になるところだけをつまみ食いして読むタイプだったという人は、NHKエデュケーション「[ゴガクル中国語](#)」を試してみてください。パソコンにもスマートフォンにも対応しています。「[ゴガクル](#)」は最初にアカウント登録が必要ですが（無償）、NHKの語学番組で使われた例文を、短い文法解説と中国語音声付きで学習できます。好きなキーワードで例文を検索してお気に入りに登録したり、自分で選んだ例文でテストを受けたり、選んだ例文を紙に印刷する機能などがあります。1か月に〇個例文を覚えると目標を立てて学習記録を残すこともできます。また、「おぼえた日記」という機能がありますので、今年度の番組の成果物の記録に使えます。ただし「おぼえた日記」は公開されますので、個人情報には十分注意し、誰に読まれてもかまわないことだけを入力しましょう。

2. 中国語の検定試験

社会人の自学自習の場合、問題になるのが学習時間をどう確保するかということです。放っておけば、仕事や家事、子育てなどがどんどん学習時間を侵食していきます。そんな時は「〇月〇日に検定試験を受ける」と目標を立てて目に見える締め切りを作ってしまう、受験料を払う限りは合格したいという「欲と二人連れ」で試験日までの数か月はとにかくがんばって続けよう!というのも1つの作戦です。

現在日本で受験できる中国語の検定試験は、[HSK（汉语水平考试）](#)（※）、[BCT（商务汉语考试）](#)

)、[YCT \(青少年汉语考试\)](#)、[C.TEST \(实用汉语水平认定考试\)](#)、[中国語検定試験](#) (以下「中検」と略します)、[TECC \(中国語コミュニケーション能力検定\)](#) などがあります (本稿執筆時)。日本の公的機関が実施するものとしては日本政府観光局の[通訳案内士試験](#)がありますが、こちらは通訳に必要な中国語の能力だけでなく、ガイドとして必要な日本の地理や歴史、政治・経済・文化などの知識も問われます。

(※) 日本ではHSKは[紙に解答する試験](#)と、[パソコンで入力して解答する試験](#)の2つの方式で実施されています (本稿執筆時)。

大学の第二外国語で中国語の初級レベルを学んでいる学生さんに検定試験について尋ねられたら、とりあえずはHSKか中検を受けてみたら?と私は答えています。いずれも一番下のレベルの級は大学の第二外国語で週2回、半年程度きちんと学んだ人なら合格の可能性があります。ただ、HSKも中検も試験結果に点数も表示されますが、級別の試験です。級別ではなく1つの試験を継続して受けて点数で実力の変化を見たいのならTECCやその初級者用のB-TECCがあります。

HSKは外国人が中国の大学に入学する際の中国語能力の証明として使用されます。筆記試験 (1級から6級) と口頭試験 (初級・中級・高級) に分かれています。筆記試験の級は日本の各種検定試験と異なり、数字が大きいほどレベルが高くなります。つまり一番下のレベルが1級で、1級は語彙数150語程度、非常に簡単なフレーズや文を理解し、使用することができるレベルとされています。学習時間で言うと週2~3コマの授業を半年間受講したくらいになります。HSKは全世界の中国語学習者を対象としています。したがって出題はすべて中国語ですが、最初に例題とその答え方が示されていますので初級のかたでもだいじょうぶです。漢字を使わない国や地域出身の初級者が漢字を読む負担の重さに配慮してか、1級2級では問題文の簡体字にすべてピンインが振られています。

中検は準4級から1級まであります。一番下の準4級は、語彙数500語程度、ピンインの読み方とつづり方、単文の基本文型、簡単な日常挨拶語約50~80、総学習時間60~120時間といったレベル設定になっています。こちらはHSKとは対照的に日本語を母語とする人をターゲットにした試験で、日本語話者の弱点をよく理解した上で作られています。例えば、日本語話者はなまじっか漢字を知っているだけに見れば意味がわかると油断しがちですが、中検の準4級ではリスニングでも筆記でもピンインを問う問題が出ます。HSKの1級には漢字を書く問題はありませんが、中検の準4級には簡体字を書く問題があります。

連載当時のリンク集（10月号）

連載と並行して「“宅女”の部屋」リンク集を公開しました。リンク集にはテキスト前半の「学習ツール」とテキスト後半の「“宅女”の部屋」の両方の分の関連リンクを含みます。本リンク集は原則として連載終了後（2014年4月以降）は更新しません。

[宅女の部屋リンク集2013年10月号](#)に行く。

[宅女の部屋リンク集に関するお願い](#)を読む。

[宅女の部屋リンク集のトップページ](#)に行く。

今月の番組（※）のテーマは「お天気キャスターになって情報を伝えよう!」です。まずは学習ツールのコーナーで伝えきれなかった天気に関する情報を補充します。また、山崎直樹先生は今月号の冒頭で「2つの大規模災害を経て、日本でも、日本語以外の言語による情報提供サービスが広まってきました。しかし、まだ十分とは言えません。みなさんも、中国語で少しでも情報を発信できるようになりませんか」と書いておられます。その際の参考になるように日本の情報を中国語で発信しているサイトなどを紹介します。

（※）2013年11月放映済み。

1. 中国の天気・気候に関する情報

日本気象協会「tenki.jp」のWebサイトの中にある「[世界天気](#)」のコーナーでは、中国の約50地点の1週間分の天気予報が見られます。中国の都市を指定して日本の主要8都市と気温や湿度を比較したグラフも見られますので、どんな服を持って行くかを決める時に役立ちます。スマートフォンにも対応しています。

中国に観光旅行に行くのであれば、中国のWebサイト「[中国天气网](#)」の中にある「[中国旅游天气网](#)」では、中国各地の“景区”jǐngqū（観光名所）の天気予報が見られます。

2. iPhoneやiPadのSiriに中国語で中国の天気を尋ねてみる

9月号の「“宅女”の部屋」では一部のiPhoneやiPadで使える中国語音声認識機能を使って発音を練習する方法を紹介しましたが、Siriは発音したことを文字にできるだけでなく、ごく限られた話題ですが、簡単な会話をすることができます。例えば、Siriを起動してiPhoneやiPadに“北京明天天气怎么样?”Běijīng míngtiān tiānqì zěnmeyàng?（北京の明日の天気はどうですか）と話しかけると、インターネットで天気予報を検索し、中国語の文字と音声で答えてくれます。

Siriは初期設定ではオフですので、オンにする方法は9月号の「“宅女”の部屋」をご覧ください。Siriには

8つの言語で質問することができますが、最初は日本語で質問する設定になっています。iOS6、iOS7では以下のようにして中国語に変更し、Siriに話しかけます（原稿執筆時）。

1. 「設定」→「一般」→「Siri」→「言語」→「中国語（北京語－中国）」

2. 「設定」→「一般」→「Siri」→「音声フィードバック」→「常にする」
3. ホームボタンを長押ししてマイクのアイコンが現れたら話しかける。ホームボタンをもう一度普通に押すと元に戻る。

なお、iOS7.1では、Siriへの話しかけ方が若干変更されていて、ホームボタンを押したままSiriに話しかけ、話し終わったらボタンから指を離すと、Siriが回答を始めます。

私が試したところ、天気以外にもこれまで番組で学んだ“你叫什么名字?”Nǐ jiào shénme míngzì? や“你家在哪儿?”Nǐ jiā zài nǎr?といった質問にもSiriは答えることができました。さらにSiriを作った人はウィットに富んだ人なのかもしれません。Siriに“我愛你。”Wǒ ài nǐ. と話しかけると...Siriに対応したiPhoneやiPadをお持ちの方は試してみてください。

3. 多言語情報発信サイト

東日本大震災当時、日本中国語学会ウェブリソース委員会委員長だった山崎直樹先生を中心に日本中国語学会のWebサイトの中に「[多言語・情報弱者対応災害支援リンク集](#)」というページが作られました。多言語による震災情報や日本の生活に役立つ情報を多言語で発信しているサイトがいろいろ紹介されています。例えば、[仙台国際交流協会](#)の[中国語版Webサイト](#)では《[仙台生活方便手冊](#)》と題して“救护车”jiùhùchē（救急車）の呼び方など緊急事態に対応するための情報の他、“煤气”méiqì（ガス）や“自来水”zìláishuǐ（水道）の料金の払い方など生活に密着した情報が中国語で紹介されています。公共料金の支払い方まで説明が必要?と思われるかもしれませんが、公共料金の支払い方法も「所変われば品変わる」です。私の友人が今北京に住んでいますが、電気料金は前払い、プリペイド式のカードで支払っているそうですよ。中国語で情報発信といっても何もないところから一から文を作っていくのはたいへんです。みなさまのお住まいの地域にも国際交流協会があつて中国語で情報発信しているかもしれませんので、調べてみましょう。

- [自治体国際化協会・地域国際協会情報](#)
- 自治体国際化協会 地域国際化協会連絡協議会「[多言語生活情報](#)」

4. 日本のニュースを中国語で配信しているサイト

日本のニュースを中国語で配信しているサイトもあります。ニュースを理解するには相当な語彙数が必要ですが、日本のニュースであれば予備知識があつて意味を類推しやすいですから、挑

戦してみてください。

NHKの海外向けラジオ放送

「[NHKワールド ラジオ日本](#)」は中国語を含む18の言語で放送されています。日本国内でもNHKラジオ第2で中国語ニュースが毎日放送されています。「NHKワールド ラジオ日本」の中国語番組はWebサイト「[NHK 环球广播网](#)」で聞くことができます。NHKWORLD RADIO JAPANというスマートフォン用のアプリもあります（[iPhone用](#)・[Android用](#)）。

新聞や通信社のサイト

ラジオのように音声はありませんが、日本の通信社や新聞社が中国語でニュースを報道しています。「[共同网](#)」は共同通信社の中国語版サイトです。日本のマスメディアによる中国語情報配信の草分けで2001年に開設されました。日本のニュースを幅広く中国語で配信しています。2012年には日本経済新聞と朝日新聞が相次いで中国語版サイトを開設し、日本語版からの翻訳記事の他、中国語版独自の記事を載せています。「[日经中文网](#)」は日本経済新聞の中国語サイトで、経済や政治に関するニュースが中心ですが、日本の文化を紹介するコーナーもあります。「[朝日新聞中文网](#)」は朝日新聞の中国語サイトで、「[专輯·连载](#)」というコーナーでは朝日新聞の看板コラム「[天声人語](#)」が日本語と中国語の対訳で読めます。

以上のサイトは日本のマスメディアによる中国語ニュースですが、中国側から見た日本のニュースとしては、中国の代表的な新聞の一つ《人民日報》のWebサイトに「[人民网日本频道](#)」という日本関連のニュースを集めたコーナーがあります。日本の同じ出来事を扱ったニュースでも立場が違えば当然見方が異なりますから、日本のメディアの中国語サイトと比較してみるのもおもしろいでしょうね。

5. 少ない語彙でコミュニケーション

多言語による情報提供サービスですが、災害直後で混乱している時期は提供する余裕がないことがあります。そんな時には日本語を母語としない人にもわかりやすい日本語で話すという方法があります。[弘前大学人文学部社会言語学研究室](#)のWebサイト「[やさしい日本語](#)」は、一人でバスに乗ったり、買い物ができたりする程度の日本語力で理解できる情報の伝え方について書かれています。一文を短くし、文節ごとに区切って、やさしい言葉を使います。「余震」は「後から来る地震」、「断水」「停電」は「水や電気が使えません」と言い換えます。

また、「[NHK NEWS WEB EASY](#)」は小・中学生や外国人にもわかりやすい日本語で書かれ

たニュースです。漢字はすべてふりがな付きで、TTS（テキスト音声合成）による読み上げ機能もついています。

実は少ない語彙で話すというのは、私たちが中国語を話している時と同じ状態です。言いたい単語が思い浮かばないときはそれを言い換えて何とかコミュニケーションを続けていきます。例えば、“姥姥”lǎo lao（母方の祖母）がとっさにでなければ、“妈妈的妈妈”māmādemāma（お母さんのお母さん）と言えば、相手は理解してくれますし、きっと“姥姥”と言い直してくれるでしょう。そうしたら自分も“姥姥”を使って話を続けます。「やさしい日本語」で話す能力は中国語を話す時にも役立つと思います。

連載当時のリンク集（11月号）

連載と並行して「“宅女”の部屋」リンク集を公開しました。リンク集にはテキスト前半の「学習ツール」とテキスト後半の「“宅女”の部屋」の両方の分の関連リンクを含みます。本リンク集は原則として連載終了後（2014年4月以降）は更新しません。

[宅女の部屋リンク集2013年11月号](#)に行く。

[宅女の部屋リンク集に関するお願い](#)を読む。

[宅女の部屋リンク集のトップページ](#)に行く。

教科書は無制限に語彙や文法項目を増やすことは避ける傾向がありますので、どうしても型どおりの表現が優先されがちです。映画やテレビ番組を利用すれば、楽しみながら自然な会話に接することができます。映画にしるテレビにしる“新鮮事儿”xīnxiān shìr (もの珍しいこと)を追い求めますので、そこに現れたものがすべてふだんの人々の姿とは必ずしも言えませんが、中国の人々の生活や文化が何らかの形で反映されていますので、中国文化の理解にも役立ちます。

1. 中国のネットテレビ

私が学生だったころ、日本にいながら中国のテレビ番組が見られる時代が来るとは思いもしませんでした。現在はインターネットを通じて無料で中国のネットテレビを視聴できるようになりました。

CNTV中国网络电视台 Zhōngguó wǎngluò diànshìtái

“[CNTV中国网络电视台](#)”のトップページにある“[频道](#)”píndào (チャンネル)のリンクをクリックすると、CCTV“中国中央电视台”Zhōngguó zhōngyāng diànshìtáiの各チャンネルの一覧のページに入ります(以下、本稿執筆時の状況)。“[节目](#)”jiémù (番組)だけでなく、“[广告](#)”guǎnggào (CM)も流れます。放送済みの番組だけでなく、“[直播](#)”zhíbō (ライブ)をクリックすれば、その時間に中国で放送されている番組を見ることができます。

テレビドラマはトップページにある“[电视剧](#)”diànshìjùのリンクから入ります。テレビドラマはたいてい字幕が入りますので、文字で確認しながら音声を聞くことができます。最新のドラマももちろんありますが、随分前に放映したものもあるようで、10年前に北京に留学中だったころに夢中で見たサスペンスドラマ《[不要和陌生人说话](#)》を発見して、思わず見入ってしまいました。

なお、CNTVには“[CNTV](#)”“[央视影音](#)”というスマートフォン用アプリ ([iPhone用](#)・[Android用](#))と、“[CNTV HD](#)”“[央视影音HD](#)”というタブレット用のアプリ ([iPad用](#)・[Android用](#))があります(※)。動画は通信量が大きく重くなりますので、Wi-Fiで接続することをお勧めします。

(※) CNTVのアプリは2013年12月のバージョンアップで改名されました。

凤凰卫视 Fènghuáng wèishì

“[凤凰卫视](#)”は香港に拠点を置く“[卫视](#)”wèishì (衛星放送)ですが、ほとんどのチャンネルが“[广东话](#)”Guǎngdōnghuà (広東語)ではなく、“[普通话](#)”pǔtōnghuà (中国の共通語)で放送されてい

ます。字幕が入る場合は“繁体字”fántǐ zì（簡略化される前の字体）になります。字幕が入る番組としては《[冷暖人生](#)》《[名人面对面](#)》などがあり、前者は一般の人にスポットを当てた番組、後者は有名人のインタビュー番組で、中国の人々のさまざまな人生に触れることができます。“鳳凰卫视”にも“鳳凰视频”というスマートフォン用アプリ（[iPhone用](#)・[Android用](#)）と“鳳凰视频HD”というタブレット用アプリ（[iPad用](#)・[Android用](#)）があります。

2. 中国のネットラジオ

テレビの場合は映像に気を取られがちです。音声に集中したい場合は、無料で聞けるネットラジオを使うという方法があります。

北京广播网 Běijīng guǎngbō wǎng

“[北京广播网](#)”の“[实时广播](#)”shíshí guǎngbōから“北京人民广播电台”Běijīng rénmín guǎngbō diàntáiのラジオ放送がライブで聞けます。“新闻”xīnwén（ニュース）や“音乐”yīnyuè（音楽）などの十数個の分野があります。“[广播回放](#)”guǎngbō huífàngから過去の番組を聞くこともできます。“北京广播网”には“北京广播在线”というスマートフォン用アプリ（[iPhone用](#)・[Android用](#)）、タブレット用アプリ（[iPad用](#)・[Android用](#)）があります。音声は動画に比べて軽いので、通勤通学の途中に携帯電話回線を使って聞くことも可能です。

中国广播网 Zhōngguó guǎngbō wǎng 听天下 Tīng tiānxià

ラジオ放送の内容を文字で確認しながら聞きたいときは、“中央人民广播电台”Zhōngyāng rénmín guǎngbō diàntáiのWebサイト“[中国广播网](#)”の中にある“[听天下](#)”というコーナーには、音声に加えて音声の概要を書き起こしたものがあります。

“中国广播网”は数種類のスマートフォン用のアプリを出しており、“听天下”もアプリ（[iPhone用](#)・[Android用](#)）（※）になっています。

（※） Androidは中国語で“安卓”Ānzhūóといひます。

3. 中国語字幕＋日本語字幕で見る映画

「狙った恋の落とし方。」

(冯小刚、2009年、原題《非诚勿扰》)

日本で発売される中国映画のDVDは中国語音声＋日本語字幕がほとんどですが、「[狙った恋の落とし方。](#)」のDVDは中国語音声、字幕は中国語字幕と日本語字幕が選べるというありがたい仕様になっています。

原題の“非诚勿扰”fēi chéng wù rǎoは「冷やかしてお断り」という意味で、“征婚启事”zhēng hūn qǐ shì（結婚相手を求める広告）でよく見られる決まり文句です。発明品で大もうけした主人公は“征婚启事”をネットに出してさまざまな女性とお見合いをし、既婚者との恋に悩むヒロインと出会います。映画後半の舞台は北海道で、この映画がきっかけで中国に北海道観光ブームが起きたと言われていています。

『映画でたのしく中国語アン・リーの＜飲食男女＞』

(東方書店、2009年)

『[映画でたのしく中国語アン・リーの＜飲食男女＞](#)』には台湾映画《飲食男女》（李安、1994年、邦題「恋人たちの食卓」）がまるごと収められたWindows用DVD-ROMがついています。中国語字幕（簡体字・繁体字）と日本語字幕を切り替えて見ることができ、辞書引き機能、テスト機能などもついたeラーニング教材です。書籍には中国語台本（簡体字＋ピンイン）、日本語訳、語句と文法の解説、文化に関するコラム、台湾華語（台湾の中国語）と“普通話”の語彙の違いの解説などがあります。

映画は一流シェフである父親と彼の3人の娘の物語です。お堅い化学教師の長女、華やかなキャリアウーマンの次女、天真爛漫な大学生の三女、3人姉妹それぞれの恋模様が描かれます。父親が娘たちのために作る数々の美味しそうな料理も見ものです。

『中華電影的中国語さらば、わが愛霸王別姫中国語・日本語対訳シナリオ集』

(キネマ旬報社、1996年)

《霸王別姫》（陈凯歌、1993年）はカンヌ国際映画祭でグランプリを取った作品です。“香港明星”Xiānggǎng míngxīng（香港のスター）張國榮（レスリー・チャン）が亡くなって今年でちょうど10年になりますが、映画の中では京劇の女形を見事に演じている姿が見られます。なお、『[中華電影的中国語さらば、わが愛霸王別姫](#)』にはDVDはついていませんので、別途入手する必要があります。

4. 日本語で放送する中国のラジオ・テレビ

今年の4月から中国語を始められたかたは、たとえ字幕があっても中国のテレビは難しすぎると感じられるかと思いますので、日本語で放送されているものや日本語字幕のあるものも紹介しましょう。日本語であっても中国の社会や文化を理解するきっかけになります。

中国国際放送局

“[中国国際广播电台](#)”Zhōngguó guójì guǎngbō diàntáiは北京から放送されている海外向けラジオで、「[中国国際放送局](#)」は“中国国際广播电台”の日本語放送です。短波ラジオをお持ちでないかたも中国国際放送局のWebサイトで無料で聞くことができます。

CCTV大富

「[CCTV大富](#)」は日本のCS衛星放送「スカパー!」や光回線を使った映像配信サービス「ひかりTV」などで見ることのできる有料放送です。CCTV“中国中央电视台”の番組に日本語同時通訳または日本語字幕をつけて放送しています。

連載当時のリンク集（12月号）

連載と並行して「“宅女”の部屋」リンク集を公開しました。リンク集にはテキスト前半の「学習ツール」とテキスト後半の「“宅女”の部屋」の両方の分の関連リンクを含みます。本リンク集は原則として連載終了後（2014年4月以降）は更新しません。

[宅女の部屋リンク集2013年12月号](#)に行く。

[宅女の部屋リンク集に関するお願い](#)を読む。

[宅女の部屋リンク集のトップページ](#)に行く。

今月の番組では日本のお正月を中国語で紹介しています（※）。日本にはお正月だけではなく、さまざまな伝統行事があります。伝統行事以外にも日本の日常のちょっとしたことが中国の人たちには不思議だったりすることがあります。今回は日本の文化や事物を中国語で紹介するのに参考になる書籍やWebページを紹介します。

（※）2014年1月放映済み。

1. 日本文化を中国語で紹介する書籍

(1) 日鉄技術情報センター『[日本—姿与心—日中対照](#)』（学生社、2010年）

1982年初版からすでに第9版まで続いている息の長い本です。新日鐵住金の社員が実際に外国人に質問された事例を集め、それに対する解説を分野別に整理したもので、内容は地理・歴史・政治・経済・社会・科学技術・文化と多岐にわたります。見開きで日本語と中国語訳（簡体字）が並んでいますので、対照させて読むことができます。中国語は“书面語”shūmiànyǔ（書き言葉）で書かれた本格的な説明文です。

(2) 『[見てわかる日本生活・社会編中国語版](#)』（JTBパブリッシング、2003年）

この本は（1）に比べて1項目当たりの文章が短く、日本語と中国語訳（簡体字）に加えてイラストが入っていますので、比較的親しみやすいと思います。「日本の一年」「生活の基本」「日常の習俗」などの章があります。

なお、（1）と（2）はピンインは付いていませんので、発音を知りたい時は電子辞書の手書き入力などで調べましょう。

(3) 秦燕・芳沢ひろ子『[中国語で日本のことを話してみる](#)』（中経出版、2013年）

日本政府観光局の通訳案内士試験に出題された問題や、通訳ガイドの現場での訪日中国人からの質問などをもとに作られた中級中国語教材で、文化・社会・生活習慣など、1項目当たり80～150字で、101のトピックが取り上げられています。中国語音声ファイル（MP3）の入ったCD-ROMがついています。中国語（簡体字、ピンイン付き）・日本語訳の他、簡単な語注があります。中国語は“口语”kǒuyǔ（話し言葉）を基本に書かれています。

以上、入手しやすさを考えて日本で出版された書籍の例を挙げましたが、もちろん中国でも日本文化を紹介する書籍は出版されています。例えば2011年に北京で創刊された《[知日](#)》は日本文化をテーマにした雑誌で、“明治維新”から“猫”まで多彩でユニークな視点で日本文化を紹介しています（※）。中国語圏で出版された書籍を購入したい場合は、「“宅女”の部屋」6月号で[中国語圏からの輸入書を扱う書店](#)を紹介していますのでそちらをご覧ください。

2. 日本文化を中国語で紹介するWebページ

検索すると日本文化を中国語で紹介するWebページはいろいろ出てきますが、ここでは日本側の公的な性格を持つWebサイトの例を挙げておきます。

日本政府観光局のWebサイト

6月号の「知っとく!コラム」の「学習ツール」で紹介した日本政府観光局中国語Webサイトには日本の文化やお祭りなどを紹介したコーナーもあります。“[日本国家旅游局](#)”（簡体字）では“[文化奥妙](#)”、“[日本國家旅游局](#)”（繁体字香港）では“[文化精髓](#)”、“[日本政府観光局](#)”（繁体字台湾）では“[文化精髓](#)”というコーナーを見てみてください。

Web Japan

「[Web Japan](#)」は日本の外務省の支援を受けて作られている日本事情を紹介する多言語Webサイトで、中国語版があります。いくつかのコーナーがありますが、“[Japan Fact Sheet](#)”はさしずめ日本概論といったところで、政治・経済・社会・文化など日本に関する情報を中国語（簡体字）で読むことができます。

3. 調べものの第一歩は百科事典から

中国の人に日本の文化や事物について尋ねられた時、中国語でどう説明するか以前の問題として、私たちは案外日本のことがわかっていないことに気づかされます。自分で調べる時にはまず百科事典を引いてみましょう。百科事典は専門家がコンパクトに記事をまとめているので、調査の第一歩に向いています。図書館まで百科事典を見に行く暇がないというかたは、「[Yahoo!百科事典](#)」というWebサイトで小学館の『[日本大百科全書](#)』を無料で引くことができます（※）。

（※）Yahoo!百科事典は2013年12月3日をもってサービスを終了しました。なお、[Yahoo!辞書](#)では[kotobank](#)と連携して、平凡社『[世界大百科事典第2版](#)』を引くことができます。

Web上で無料で引ける百科事典と言えば、まず「[Wikipedia](#)」を思い浮かべるかたも多いかと思います。「Wikipedia」には中国語版“[维基百科](#)”もあり、日本語版と中国語版で同じ見出し語があると、対訳ではありませんが、内容を見比べることができるようになっています。今月号の「知っとく!コラム」の「学習ツール」で、日本にも中国にも端午の節句があるが祝いかたが違うと書

きましたが、[日本語版「Wikipedia」で「端午」を検索する](#)と、中国に起源があることや日本における端午の節句などについて書かれています（原稿執筆時）。検索結果のページの左側に他の言語の「Wikipedia」へのリンクがあり、“中文”をクリックすると同じ見出し語の中国語版にジャンプします。[中国語版ではアジア各地の“端午节”に関する解説が表示](#)され、本文の冒頭に“[端午節（華人）](#)”（中国系の人たちの“端午节”）のページへのリンクもあります（原稿執筆時）。

ただ、「Wikipedia」は誰でもいつでも内容を書き換えることができます。中国のWeb検索サービス“百度”で検索するとよく出てくる“[百度百科](#)”も「Wikipedia」と同様に誰でも内容を書き換えられます。いずれも記事を執筆している人がその分野の専門家とは限らないことに注意して使うようにしてください。

4. 中国語訳付きの日本語学習Web教材

中国語訳の付いた日本語学習教材も中国語で日本のことを紹介する時に参考になりますし、この日本語はこう中国語に訳すのかという発見があります。

国際交流基金Web版「エリンが挑戦！にほんごできます。」

「[エリンが挑戦！にほんごできます。](#)」の言語を選ぶコーナーで「[中文（简体字）](#)」に切り替えると、サイト全体が中国語に切り替わり、動画コンテンツの字幕表示で中国語が選択できるようになります。文化の紹介という点では、“这是什么？”Zhèshìshénme（?これは何?）というコーナーがあり、受験参考書などに付いている暗記用の赤いシートや、コンビニのレジに置いてある不要なレシート入れなど身の回りのちょっとした事物が取り上げられていて、日本語と対照しながら中国語の説明を読むことができます。

国際交流基金「アニメ・マンガの日本語」

日本の“动漫”dòngmàn（アニメ・マンガ）は中国語圏でも人気があり、若い人が日本語を学ぶ大きなきっかけになっています。「[アニメ・マンガの日本語](#)」の[中国語版](#)では、日本のアニメやマンガによく出てくる典型的なキャラクターや場面を取り上げて、日本語と中国語で解説しています。教材になっているマンガは吹き出しをせりふをクリックすると台詞が日本語—中国語の対訳で読めます。

中国語解説付き日本語学習Web教材を探すには？

文化庁によるWebサイト「[日本語教育コンテンツ共有システム](#)」では「対照母語」のコーナーで中国語を選ぶと中国語解説付きの日本語学習教材のリンク集につながります。国際交流基金によるWebサイト「[NIHONGO eな](#)」ではトップページで「[+中文](#)」を選ぶと中国語話者向けの日本語教材紹介のページに行きます。

連載当時のリンク集（1月号）

連載と並行して「“宅女”の部屋」リンク集を公開しました。リンク集にはテキスト前半の「学習ツール」とテキスト後半の「“宅女”の部屋」の両方の分の関連リンクを含みます。本リンク集は原則として連載終了後（2014年4月以降）は更新しません。

[宅女の部屋リンク集2014年1月号](#)に行く。

[宅女の部屋リンク集に関するお願い](#)を読む。

[宅女の部屋リンク集のトップページ](#)に行く。

これまでいくつもWeb教材を紹介してきましたが、インターネットに接続していないと見られませんし、教材提供側が公開を中止すると、もう見ることはできなくなってしまいます。今回はダウンロードして自分の手元に置いておける音声や動画の教材を紹介します。また、これまで紹介してきた教材は中国語「を」学ぶための教材ですが、そこから一歩進んで中国語「で」学ぶための教材やWebサイトにも触れます。

1. ダウンロードできるインターネット放送

—Podcast—

Podcastはインターネット放送の一種ですが、ダウンロードが前提になっている配信形式ですので、音声ファイルや動画ファイルを手元に置いておけます。PodcastはApple社独自のサービスではありませんが、Apple社の無料ソフト[iTunes](#)を使うと、検索とダウンロードが一つのソフトでできて便利です。iTunesはMacにはあらかじめインストール済みです。Windows版はApple社のサイトからダウンロードできます。iPhone・iPad用のApple社製アプリ[Podcast](#)もあります。

以下パソコン用のiTunesでの手順を紹介します。

1. iTunesを起動して、iTunes Storeに行きます。iTunes Storeは音楽や映画などの有料ダウンロード販売を行うところですが、Podcastと後述のiTunes Uに関しては無料でダウンロードできます。
2. iTunes Storeの検索ボックス（虫眼鏡のアイコンがついているところ）にキーワードを入れて検索します。「中国語」、「汉语”Hànyǔ”」、「中文”Zhōngwén”」、「Mandarin」、「Chinese」といったキーワードで検索するとたくさん出てきます。検索結果は音楽やアプリなど有料のものといっしょに出てきますので、その中からPodcastを探します。
3. 各Podcastのコーナーで、各回の右端にある「無料」と書かれたところをクリックするとダウンロードが始まります。「購読する」をクリックすると、継続配信を受けることができます。

中国語で配信されているPodcastはたくさんありますが、その中からいくつか選んで紹介しましょう。

11月号の「宅女の部屋」でNHKがラジオで中国語ニュースを放送していることを紹介しましたが、このニュースはPodcastでも「[Chinese News - NHK WORLD RADIO JAPAN](#)」として配信されており、音声をダウンロードすることができます。

以下の3つは会員制（有料または一部有料）の中国語学習サイトが配信するPodcastです。宣伝のためでしょうか、Podcastは会員にならなくても無料でダウンロードすることができます（本稿執筆時の状況）。

iMandarinPod

“[iMandarinPod](#)”は天津から配信されている音声Podcastです。ゆっくり読んだニュース、伝統文化の紹介、日常会話などがあります。iTunesで各回のタイトル欄の右のほうにあるiのアイコンをクリックすると、音声の概要が文字で見られます。

CSLPod

“[CSLPod](#)”は北京から配信されている音声Podcastです。Elementary（初級）からAdvanced（上級）まで5つのレベルに分かれた教材が配信されています。CSLPodのWebサイトに行くと音声を文字に書き起こしたのが見られます。

ChineseClass101

“[ChineseClass101](#)”はアメリカから配信されているPodcastで、音声と動画があります。解説部分は英語ですので、中国語と英語が同時に学べます。iTunesで各回の音声のタイトル欄の右のほうにあるiのアイコンをクリックすると、音声の概要が文字で見られます。

手前みそですが

私も中国語学習教材をPodcastで無料配信しています。いずれも中国語音声に加えて日本語訳の音声も入れてあり、音声だけで本文の意味がわかるようにしてあります。iTunesで各回の音声のタイトル欄の右のほうにあるiのアイコンをクリックすると、音声の概要が文字で見られます。

- 清原文代・顧春芳著「[大阪府立大学中国語ポッドキャスト旅行会話編](#)」（音声・PDFのプリント）
- 清原文代著、中国語校閲：史彤春・方紅「[接客のための中国語](#)」（音声・PDFのプリント・

電子書籍EPUB)

- 清原文代・韓艶玲・浦山あゆみ・田邊鉄著「[中国語教材 中国の大学生と話そう！让我们互相学习吧！](#)」（音声・PDFのプリント）

2. 教育機関が配信する動画教材や音声教材をダウンロード

— iTunes U —

iTunes UはApple社の提供するサービスで、世界各地の大学や教育機関の講義ビデオや講義音声¹を無料で入手できます。1で紹介したパソコン用ソフトiTunesを使ってiTunes Storeに行き、Podcastと同様の操作で検索とダウンロードをします。iPhoneとiPadについてはiTunes Uアプリがあります（※）。

（※）以下のiTunes Uに関するリンクは、パソコンの場合は[iTunes](#)、iPhoneやiPadの場合は[iTunes U](#)アプリをインストールした上でご覧ください。

日本からは[東京大学](#)・[京都大学](#)・[早稲田大学](#)・[慶應義塾大学](#)など17校がiTunes Uに参加し、講義や公開講座のビデオを配信しています（本稿執筆時）。中国語に関しては、[関西大学](#)が「[徹底学習中国語会話 Chinese Station3](#)」を配信していて、1本5分程度のビデオ教材（初級～中級）が100本以上あります。

この4月から中国語を始められたかたは、現在は中国語そのものを学ぶ段階ですが、読者のみなさまの中には、中国語「を」学ぶ段階から中国語「で」学ぶ（中国語を使って学ぶ）という段階にさしかかりつつあるかたもいらっしゃるかと思います。iTunes Uの中には中国語による講義もあります。例えば、関西大学の沈国威教授の「[漢外語彙教学概論-漢語詞彙教&学](#)」は関西大学での実際の講義を収録したもので1本1時間程度ありますが、講義の要旨を書いたスライドと一緒に表示されますので、中国語による講義を初めて聞くかたにおすすめです。iTunes Uには中国語圏の大学も参加していて、“[国家开放大学](#)”Guójiā kāifàng dàxué（The Open University of China）などが講義ビデオを配信していますので、中国に留学して講義を聞く気分が味わえます。

3. Webブラウザで見られる中国語「で」学ぶための教材

1と2で紹介したものはiTunesというソフトを使って音声や動画をダウンロードしますが、新しい

ソフトを使うのが不安だというかたもいらっしゃるかもしれません。中国語「で」学ぶための教材は、もちろんiTunesUだけではありません。iTunes Uに参加している[“国家开放大学”の講義ビデオはWebサイトで見る](#)こともできます。ここではもう一つWebブラウザで無料で見られるものを紹介しておきます。

中国网络电视台中国公开课 **Zhōngguó wǎngluò diànshìtái** **Zhōngguó gōngkāikè**

"[中国网络电视台中国公开课](#)"のおもしろいところは“大学”dàxué（大学）の講義ビデオだけでなく、“高中”gāozhōng（高校）・“初中”chūzhōng（中学校）・“小学”xiǎoxué（小学校）の授業ビデオが見られることです。小学校レベルの“数学”shùxué（数学）、“语文”yǔwén（国語）、“科学”kēxué（科学）であっても中国語で理解するとなるとなかなか大変です。また、このサイトにはアメリカの大学などの英語による講義ビデオに中国語字幕を付けたものもあります。

連載当時のリンク集（2月号）

連載と並行して「“宅女”の部屋」リンク集を公開しました。リンク集にはテキスト前半の「学習ツール」とテキスト後半の「“宅女”の部屋」の両方の分の関連リンクを含みます。本リンク集は原則として連載終了後（2014年4月以降）は更新しません。

[宅女の部屋リンク集2014年2月号](#)に行く。

[宅女の部屋リンク集に関するお願い](#)を読む。

[宅女の部屋リンク集のトップページ](#)に行く。

私が学生時代にはこんな便利なものはなかった、今はせっかくこんな「文明の利器」があるのだから、学習者の皆様に紹介したい!と1年間このコラムを書いてきました。今回は最終回。私の中国語学習歴を振り返りながら、中国語学習に役立つ書籍やWeb辞書について紹介します。

1. いつでもどこでも辞書を — スマートフォンで使うWeb辞書

私が大学1~2年生の時に中国語を教えていただいた宮田一郎先生は中国で中国語を学ばれたのですが、街に出る時はいつも小さな辞書を持って行って、街の看板で読めない字があるとすぐに辞書を引いて憶えたとおっしゃっていました。

気になる単語があればすぐに辞書を引くという行為自体は昔も今も変わりません。紙の辞書を持ち歩くのはたいへんですが、今はスマートフォンがあります。

この連載でも取り上げ、番組のコーナーでも紹介した「NAVER中国語辞書」ですが、残念ながら2013年12月18日にサービスを終了しました。現時点では「NAVER中国語辞書」と全く同じ機能を持ったWeb辞書はちょっと見当たりません。単語の中国語音声を知りたいのであれば、4月号で紹介しましたが、「[goo辞書](#)」に入っている中日辞典（三省堂『デイリーコンサイス中日辞典第2版』）で見出し語の音声を知ることができます。「[Weblio日中中日辞典](#)」に入っている『白水社中国語辞典』は音声はついていませんが、文型説明が詳しく、玄人受けする辞書です。

この2つは元になる紙の辞書があるものですが、元になる紙の辞書がなく、各ユーザーが単語を登録して辞書を作っていく「[北辞郎](#)」という中国語Web辞書もあります。このWeb辞書は技術翻訳をしているかたの手控えから始まったものなので専門用語が多く収録されています。

それから1月号で紹介した「Yahoo!百科事典」（小学館『日本大百科全書』が引けるサービス）も昨年12月で終了しましたが、本連載では訂正が間に合いませんでした。こちらは辞書サービスそのものがなくなったわけではなく、「[Yahoo!辞書](#)」は「[kotobank](#)」というWeb辞書サービスと提携していて、平凡社の『世界大百科事典第2版』を引くことができます。これらのWeb辞書は全てスマートフォンに対応していますので、スマートフォンのWebブラウザにブックマークをつけておくとよいでしょう。

スマートフォンで中国語Web辞書を使う時には中国語手書き入力をONにしておきます。

iPhoneは「設定」→「一般」→「キーボード」で中国語簡体字の手書き入力をONにします。

Androidを搭載したスマートフォンの場合は機種による違いが大きくて一概には言えないのですが、まず「設定」→「言語と入力」の中に[Google Pinyin Input](#)（Googleピンイン入力、谷歌拼音输入法）が入っていないか見てください。Google Pinyin Inputには手書き入力機能もついています。もし入っていないければ、Google Playからダウンロードすることができます。

2. 外国語学習に関する本、“宅女”の中国語学習 歴

「私はこうして〇〇語をマスターした!」という体験談を書いた本やWebページは多数ありますが、「餅は餅屋」、外国語習得を研究する研究者が一般向けに書いた書籍のうち、2点を挙げておきます。

- 竹内理『[「達人」の英語学習法データが語る効果的な外国語習得法とは](#)』（草思社、2007年）
- 白井恭弘『[外国語学習の科学—第二言語習得論とは何か](#)』（岩波新書、2008年）

私自身の学習過程を振り返ってみると、これらの書籍に書かれていることの多くは実体験として納得できます。

私の中国語学習は文字によるインプット→音声によるインプット→アウトプットと進んできました。大学の第二外国語の授業で一通り発音と文法を学んだ後、古典から現代中国語までひたすら朗読しては訳すというタイプの授業を受けました。2年生の終わりに中国に短期留学する機会があったのですが、自分が全然中国語を聞き取れない、話せないという現実直面します。まずは聞き取れるようにならねばと思い、中国の映画やニュースを1字1字書き起こしていきました。わからない部分はピンインでこう書くのかな?と予想して辞書を引きました。漢字でどう書くのかわかると「なーんだ、こんな単語か」の繰り返し、つまりすでに文字で知っているものを音声として定着させていくという過程をたどったわけです。訳読式の授業は最近人気がありませんが、文字から先に大量にインプットする方法は私には合っていたと思います。ただ、人によって学習のスタイルはさまざま、知り合いのある中国語学の研究者は学生時代、講読の授業が大嫌いだったそうで、まずニュースを聞くなどして音声からインプットしていき、それから文章を読む方へと進んだと言っていました。それぞれ着手点は違っていました、大量のインプットをまず行ったという点では共通しています。文字にしる、音声にしる、今はインターネットを通じて私の学生時代とは比較にならない量と幅広い分野の中国語の情報が無料で入手できます。その一端をこのコラムで紹介しましたが、「好きこそ物の上手なれ」、皆様も自分が関心のある分野の情報を中国語でインプットしてみてください。

アウトプットについては、衝撃の短期留学の翌年から非常勤講師としていらした張成銘先生の授業が大きな転機になりました。当時の張先生はほとんど日本語がわからない状態だったので、私たちは中国語を話さざるを得なかったのですが、つい黙り込んでしまう学生たちを、張先生は“不要害怕说错，大胆说！” Búyào hàipà shuōcuò, dàdǎn shuō!（言い間違いを怖れてはいけない、大胆に話しなさい）と励まし、穏やかに根気よく指導してくださいました。

張先生の授業に慣れてきた頃、中文専攻の主任教授が私たちを呼び、「〇月〇日の張先生の授

業は大学の行事で休講になる。事務が張先生に通知を出しているはずだが、張先生は日本語がおわかりにならないからちゃんと伝わっているかどうか心配だ。次の授業の時に確認しておいてくれ」と言いました。「先生、そんなことは自分で言ってくださいよ……」と心の中で愚痴りつつ、うまく伝わるかどうかドキドキしながら級友と一緒に張先生に話しました。今年度の番組では毎月山崎先生から皆様に任務が課せられていますが、今思えば主任教授は私たちに学んだものを実際に使って任務をこなすというアウトプットの機会を与えてくれたのです。

3. 中国を知るための本

その後も私は中国語学習の節目節目に悔しい思いや情けない思いをして、それをきっかけにして次のステージに進んで来ましたが、そこで挫折しなかったのは、おそらく中国語や中国文化に対する興味関心、そして好奇心があったからでしょう。中国を知るための本はたくさんありますが、初学者向けに書かれていて、更に詳しく知りたい人のための読書案内や参考文献リストがついたものの中からいくつか紹介します。

- (1) 相原茂編著『[中国語学習ハンドブック改訂版](#)』（大修館書店、1996年）
- (2) 愛知大学現代中国学部編『[ハンドブック現代中国第四版](#)』（あるむ、2013年）
- (3) 園田茂人編『[はじめて出会う中国](#)』（有斐閣、2013年）
- (4) 関西中国女性史研究会編『[増補改訂版 中国女性史入門—女たちの今と昔](#)』（人文書院、2014年）

(1) は中国語の発音・語彙・語法の概説に加えて、中国の文化や社会、歴史など中国語を学ぶのに必要な知識をコンパクトにまとめたもので、手元に置いておきたい1冊です。ただ、出版されて日がたっていますので、現在の中国の状況については(2)や(3)がよいでしょう。(2)は歴史、政治、経済、社会、生活、文化など幅広く取り扱い、(3)は政治や社会に重点をおいて解説しています。中国では女性は“半边天”bànbīantiān（天の半分を支える人）と言われます。(4)は古代から現代まで、女性という切り口で中国の歴史や文化を紹介しています。

4. “活到老，学到老”**huódào lǎo, xuédào lǎo**（ 生きている限り学び続ける）

18歳から中国語を学び始めてもう30年以上たちますが、中国語は母語である日本語と同じようには使えません。最初のうちそれがコンプレックスになっていましたが、しだいに考えかたが変

わかりました。学び続ける限り「ああ、中国語ではこんな言いかたをするのか」という発見の楽しさと、「この前見つけた表現を使えるようになったぞ」という成長の喜びが一生続くのだと考えるようになりました。教員としては、一歩先を歩く学習者として後から来る学習者を援助するのが私の役目だと思うようになりました。この「オタクな」コラムが皆様の中国語学習に少しでもお役に立てたのなら幸いです。それでは、“同学们，再见!” Tóngxuémen, zàijiàn! (クラスメートの皆さん、さようなら！)。

連載当時のリンク集（3月号）

連載と並行して「“宅女”の部屋」リンク集を公開しました。リンク集にはテキスト前半の「学習ツール」とテキスト後半の「“宅女”の部屋」の両方の分の関連リンクを含みます。本リンク集は原則として連載終了後（2014年4月以降）は更新しません。

[宅女の部屋リンク集2014年3月号](#)に行く。

[宅女の部屋リンク集補遺](#)に行く。（連載時に紹介できなかった書籍やアプリなどのリンク集）

[宅女の部屋リンク集に関するお願い](#)を読む。

[宅女の部屋リンク集のトップページ](#)に行く。

「“宅女”の部屋」はどうしてできたか？

山崎直樹先生からの依頼

2013年度のNHK Eテレ「テレビで中国語」の講師を務められた山崎直樹先生から、「テレビで中国語」テキスト（NHK出版）でコラムを書かないかというお話をいただきました。テーマは中国語学習に役立つツールの紹介、この依頼はテキスト前半の「知っとく！コラム」の一部となりました（西香織先生「コミュニケーションのルール」・中西千香先生「文化のルール」・清原文代「学習ツール」）。

固有名詞が出せない！→“宅女”キレル

ただ、「学習ツール」は番組テキスト部分ということで、商品名や企業名などを出すことが難しいということわかり、それじゃあ学習に役立つツールは紹介できない！と私は「キレて」しまい、その結果できたのがテキスト後半に掲載されたこの「“宅女”の部屋」です。「“宅女”の部屋」の中で、時々テキスト前半の「学習ツール」を受けて話を展開している部分がありますが、それはこのような事情があったからです。

「“宅女”の部屋」が掲載されている部分は番組テキストではなく、NHK出版の管轄する部分なので商品名や企業名をかなり自由に出すことができます。といってもこれまで「“宅女”の部屋」のように商品名や企業名がしょっちゅう出てくるコラムはあまりなかったそうです。前例がないのに連載を決断してくださり、今回「“宅女”の部屋」の無償公開にも応じてくださったNHK出版編集部に感謝いたします。

谢谢大家！

編集者や校閲の方にはたいへんお世話になりました。最初に「“宅女”の部屋」の編集を担当してくださったのは北原幸恵さんです。次に編集を担当してくださったのは鈴木渡さんとマチルダ編集室さんです。皆様、気性が激しく頑固で筆が遅いという困った著者である私に根気よくつきあって下さいました。執筆中ずっとこういう「オタク」なコラムは果たしてNHKテキストの読者に受け入れられるだろうか？と常に不安だった私を励まし続けてくれました。

最初はコラム執筆だけというお話でしたが、思いもかけず番組の方にも2013年4月から9月まで月1回出演することになり、田原靖士さん、山口明宏さん、佐藤久美さん、貫井真史さんなど番組スタッフの方々にもお世話になりました。谢谢大家！Xièxie dàjiā!（みなさん、ありがとう！）

初出誌一覧

1. 「“宅女”の部屋」第1回 『NHKテレビ テレビで中国語』4月号 pp.112-116 (NHK出版、2013年3月18日発行)
2. 「“宅女”の部屋」第2回 『NHKテレビ テレビで中国語』5月号 pp.116-119 (NHK出版、2013年4月18日発行)
3. 「“宅女”の部屋」第3回 『NHKテレビ テレビで中国語』6月号 pp.110-113 (NHK出版、2013年5月18日発行)
4. 「“宅女”の部屋」第4回 『NHKテレビ テレビで中国語』7月号 pp.116-119 (NHK出版、2013年6月18日発行)
5. 「“宅女”の部屋」第5回 『NHKテレビ テレビで中国語』8月号 pp.110-113 (NHK出版、2013年7月18日発行)
6. 「“宅女”の部屋」第6回 『NHKテレビ テレビで中国語』9月号 pp.108-111 (NHK出版、2013年8月18日発行)
7. 「“宅女”の部屋」第7回 『NHKテレビ テレビで中国語』10月号 pp.84-87 (NHK出版、2013年9月18日発行)
8. 「“宅女”の部屋」第8回 『NHKテレビ テレビで中国語』11月号 pp.86-89 (NHK出版、2013年10月18日発行)
9. 「“宅女”の部屋」第9回 『NHKテレビ テレビで中国語』12月号 pp.92-95 (NHK出版、2013年11月18日発行)
10. 「“宅女”の部屋」第10回 『NHKテレビ テレビで中国語』1月号 pp.90-93 (NHK出版、2013年12月18日発行)
11. 「“宅女”の部屋」第11回 『NHKテレビ テレビで中国語』2月号 pp.92-95 (NHK出版、2014年1月18日発行)
12. 「“宅女”の部屋」最終回 『NHKテレビ テレビで中国語』3月号 pp.114-117 (NHK出版、2014年2月18日発行)

“宅女”の部屋（Webやアプリを活用した中国語学習法）

<http://p.booklog.jp/book/84018>

著者：清原文代（きよはら・ふみよ）

1960年代に大阪に生まれる。大阪市立大学大学院文学研究科中国文学専攻後期博士課程単位取得退学。大阪女子大学人文社会学部国際文化専攻専任講師を経て、現職は大阪府立大学高等教育推進機構外国語教育センター准教授。専門は中国語教育とeラーニング。初級者向け中国語教材のネット配信も行っている。近年の関心はスマートフォンやタブレットを使ったいつでもどこでも学ぶモバイルラーニング。“宅女”を自称しているだけあって、自宅にも大学の研究室にも数々の携帯用電子機器が転がっている。近著は『[改訂版リズムで学ぶ三文字中国語](#)』（アルク、2012年）。

2014年4月8日 初版発行

発行所：株式会社好文出版

発行者：尾方敏裕

〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町540 林ビル 3F

Tel.03-5273-2739 Fax.03-5273-2740

<http://www.kohbun.co.jp>

©2014 Fumiyo KIYOHARA

ISBN978-4-87220-200-7

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/84018>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社ブックログ